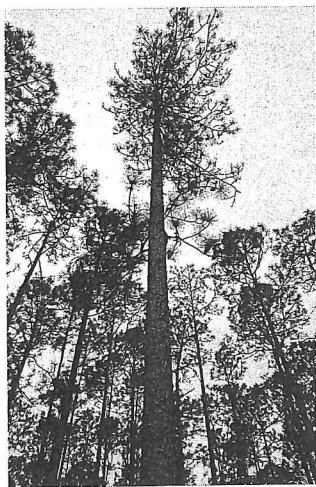


日刊 木材 新聞

米加両国から 多様な樹種を供給

インターフォー

インターフォー(カナダBC州、イアン・フィリッシュャー社長)は、BC州沿岸、内陸、米国西海岸、米国内部の4地域に生産拠点を持つ。



米国南部のSYP

BC州沿岸のエコーン工場は1シフト週5日稼働で年間25万立方尺の生産能力があり、カナダツガのグリーン及びKD小角、米松KD小角を専門に製材している。1シフトで無理せず製材することで丸太の調達コストを安定させると同時に、丸太をサイズ別に仕分けることでその時々のニーズに合ったサイズ、長さで供給できるように工夫している。特に土台向けのカナダツガグリーン小角は日本向け供給の主力で、WFPのストライキ中は同社がフル生産して日本向け供給を支えた。

内陸の3工場(アダムスレイク、グラッドフォークス、キャッスルガー)は年間120万立方尺の生産能力で、SPFと米松、米ツガ、WRC(ウエストンレッドシダー)のディメンションランバーを生産し、日本向けは2×4材に加えて米松の原板を供給している。昨年はキャンフォールからアダムスレイク工場と林地が隣接するバベンビー工場の年間約34万9000立方尺の伐採権と森林ライセンス、工場に付属する林業用資産を取得。長期の丸太調達を強化した。

米国南部は9工場で230万立方尺の生産能力があり、18年以降、22年まで総額3億5000万ドルを投資し、生産能力を拡充している。

SPF(サザイントップクラスにある。エローパーイン)は資源量が豊富で生長が早いだけでなく、2×4製材としての基準強度は、土台、トラス用材として需要開拓を進め込み強度は針葉樹では

顧客との直接対話で ブランド価値創出

マンケランバー

マンケランバー(米国ワシントン州、チャールズ・マンケ社長)は、日本向け専門工場であるサムナー工場



10種のサイズ対応は北米シッパーで最大

年間12万立方尺の米松製材を生産する。米松KD小角から根太、筋違、タルキまで10種類に及ぶサイズ対応は北米の米松製材シッパーで最大。インターフォーが販売窓口となった

★ ランド価値は北米随一で、オフアアは毎回完売する。

PEFC認証製品を供給する240平方尺の自社林を保有し、自社で伐採から搬出、

植林まで手掛けることで丸太調達を安定化しているほか、米国向けのタコマ工場との2工場体制で付加価値の最大化を図っている。工

場の機械開発、製作、メンテナンスマまで自社で手掛けるのも特徴で、市場のニーズに即応した柔軟な生産、加工、出荷体制を構築している。

継続的な設備投資も特徴で、現在は人手不足に対応した仕分け装置へのロボット導入を進めている。